

私のオオムラサキーベランダ飼育の4年間

川崎 安寿¹⁾

はじめに

オオムラサキは日本の国蝶とされている、とても美しいタテハチョウです。成虫の主食は樹液なので雑木林に暮らし、日本の里山が減少する中でオオムラサキも数を減らしています。私は小学5年生だった2005年からオオムラサキをふやしてみたくて飼育に挑戦していますが、他の蝶に比べると育てるのが難しく、いろいろと失敗を繰り返してきました。2009年、なんとか4匹を羽化させることができましたが、交尾繁殖には至りませんでした。そこで、この4年間にオオムラサキを育てて学んだことを、失敗エピソードもまじえてレポートにしました。

1. 飼育1年目(2006年)

2005年12月下旬、大阪府豊能郡豊能町の雑木林に生えるエノキの下で、落葉に埋もれて冬越しをする幼虫を2匹採取し、自宅の冷蔵庫の野菜室で保存、翌春、エノキが芽吹き始めた4月20日に屋外へ出し、エノキの葉で飼育を始めました。以前から、いろいろな蝶や蛾の幼虫を育てていたので、同じように飼育ケースにエノキの枝を差して育てる方法で試みたのですが、エノキは水揚げが悪くすぐにしおれてしまいます。オオムラサキの幼虫は自分の居場所を定めると葉の表面に細かく糸を吐き台座を作ります(写真1)。食事をするため別の葉



写真1 細かい糸で作られた台座

に移る時も、糸を吐きながら移動し、また元の台座のあるところへ戻ります。そのためエノキの枝がしおれてしまうと、自分の居場所も失うことになり、新たに与えられた枝に移って、また台座作りから始めなければなりません。これを繰り返したためか幼虫は5月中旬までにすべて弱って死んでしまいました。

2. 飼育2年目(2007年)

エノキがしおれるという失敗を教訓にして、食草のエノキを植えて殖やすことから始めました。エノキの実実は甘く鳥が好んで食べるため、そのフンの中の種が落ちて、色々な場所に生えています。そんな小さな苗木を家の近くの街路樹の植え込みの中などで見つけて冬の間に抜き、植木鉢に移して育てました。4月22日、枯れ枝のようだったエノキの木に若葉が伸び始めたので、前年と同じ場所で採取し、冷蔵庫で冬を越した3匹の幼虫を土の上に置き、植木鉢ごと大きなネットにくるみました(写真2)。この方法でエノキがしおれる心配は無くなりましたが、幼虫の居場所を探すのは大変でした(写真3)。また、残念なことにネットの隙間から入ったアリに襲われ、1匹が死んでしまいました。

脱皮を繰り返し終齢近くなると、食べる量も増えネットの中の苗木は丸裸になり、別の苗木と交換しなければなりません(写真4)。たくさんのエノキを植木鉢で育てていて困ったことの1つにエノキワタアブラムシの発生があります。白くてフワフワと飛ぶアブラムシで一度付くと増殖するスピードが速く、栄養分を吸い取るので葉がしなびたようになります。また、アブラムシ特有の甘い蜜を出すので、アリが集まり幼虫に危険を及ぼ



写真2 春になると茶色だった背面突起が緑色になる



写真3 冬越し後1回目の脱皮を終えると体色は緑色になった。左脱皮前 右脱皮後

¹⁾ Anju KAWASAKI 西宮市立今津中学校2年



写真4 脱皮を繰り返すごとに大きく成長していった



写真5 長さ約45mmの立派な蛹



写真6 初めて羽化したオスのオオムラサキ



写真7 ネットの上から襲われたらしく穴の周囲に蝶の体液が残っていた。



写真8 引きちぎられた翅



写真9 1匹ずつ分けたネット

します。駆除するのに殺虫剤が使えないので、発生したら早く見つけて、1匹ずつハブラシやスポンジを使って、取り除くようにしました。

その後残った2匹は無事さなぎになり(写真5)、6月20日、初めてオオムラサキのオスが羽化しました(写真6)。そして2階のベランダにネットがけのままそっと置いておいたのですが、その日の夜、ベランダに侵入した、のら猫にネットを食いちぎられ、食べられるという悲劇が起きました(写真7, 8)。そこで猫の侵入防止のため、目隠し用の柵や猫の嫌いな超音波を出す機械などを設置し、残りの1匹も無事羽化しました。オスでした。

3. 飼育3年目(2008年)

2007年冬、採取した越冬幼虫は3匹だったのですが、冷蔵庫内での管理に失敗し、春エノキに移しましたが、衰弱してすぐに2匹が死んでしまいました。冷蔵庫の野菜室へは小さなプラスチックの入れ物に、乾燥を防ぐための水分を含ませたティッシュを敷き、エノキの葉と一緒に幼虫を入れているのですが、この年はまめに点検をしていなかったせいか、かなりカビが発生していました。もしかしたらそれが原因だったのかもしれませんが。残った1匹はアリの侵入を防ぐために、ファスナー付きランドリーネットで1本の枝だけを包むようにして、その中へ移したのですが、観察するために何度もファスナーを開閉したのがいけなかったようで、自分の吐いた糸にからんで死んでしまいました。大失敗の年でした。

4. 飼育4年目(2009年)

2008年12月14日、大阪府豊能郡豊能町にて、今までで一番多い6匹の越冬幼虫を採取できたので、冷蔵庫での越冬管理は湿度をきちんと与えながらも、カビが発生しないように注意を払い慎重に行いました。植えて4年目になるエノキも大きく成長し、昨年夏に発生したアブラムシを薬で退治した後、葉が落葉するまでネットをかぶせたままにして、秋に再度大発生するエノキワタアブラムシが産卵するのを予防しました。それでも6匹もの幼虫を1本のエノキで育てるのは無理そうなので、若齢幼虫の間は昨年と同じ方法で1匹ずつ分けて育て、失敗を繰り返さないためにもネット越しに中をうかがうだけにして、若齢での観察はあきらめました(写真9)。ネットの中の葉が少なくなってきた2009年5月20日、そっと開けてみると、どの幼虫もずいぶん大きく成長していました。でも1つのネットだけ、隙間があったのかクモかアリが侵入したらしく、幼虫の背に傷があり2日後に死んでしまいました。他の5匹は昨年からのネットをかけて用意しておいた、一番大きなエノキの鉢に移すことにしました(写真10)。このネット



写真 10 5月20日個々のネットから出した幼虫



写真 12 台座にじっと身を伏せる



写真 13 大きく成長した終齢幼虫



写真 11 前年の夏からネットに入れて準備したエノキ



写真 14 蛹になる場所を探して動き回る



写真 15 動き回っていた幼虫は場所を決めると前蛹になる



写真 16 前蛹の表面の皮が薄く浮いたようになった



写真 17 頭の方からズルズルと靴下を脱ぐように脱皮をした



写真 18 お尻の部分1ヶ所だけで枝についているのに、そこを一瞬だけ外して脱いだ皮を落とした

には長いファスナーをつけていたので観察しやすかったです (写真 11).

オオムラサキの幼虫はエノキの葉の表側に居場所を作るので、天敵から身を守るためでしょうか昼間ほとんど



写真 19 蛹から抜け出して翅を伸ばすオス



写真 21 吸蜜するメス オスに比べると上翅が大きい

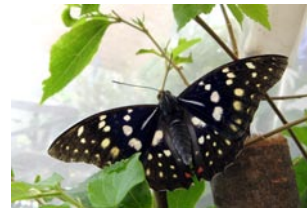


写真 20 日光浴をするオス

動きません。いつ見ても、台座の上で頭を伏せた状態でじっとしています (写真 12)。しかし終齢幼虫は、さなぎになる前頃になると昼間でも移動し始めます (写真 13, 14)。

そして気に入った場所を見つけるとそこに留まって前蛹になります。今年初めてオオムラサキの前蛹が、脱皮してさなぎになるところを写真に撮ることができました (写真 15, 16, 17, 18)。

1匹目の幼虫がさなぎになって15日目の6月16日(午前中)オスが羽化しました。ちょうど朝日新聞にも「広島府中市の里山でオオムラサキが羽化」という記事が載ったので、自然な形で育つ場合も羽化の時期は一緒なんだと思いました (写真 19)。

蝶の成虫の飼育に使う乳酸飲料を薄めたシロップを作り、脱脂綿に含ませ、トレーに入れてネットの中にするしてみました。飲みに来ないので強制的に吸蜜させると、口ふんを伸ばして飲み始めましたが、結局5日間しか生きませんでした。このオスの翅はあまり痛んでいなかったのに、標本にして残すことにしました (写真 20)。

その翌日、とても大きい立派なメスが羽化。オオムラサキは樹液に来る蝶なので、今度は樹液に似せた糖蜜採集用の蜜を作り、脱脂綿に含ませ、木の枝をくり抜いた中に詰めてネットの中に仕掛けてみました。そして、そっと誘導したところ自ら口ふんを伸ばして吸蜜しました (写真 21)。

続いてその翌日、オスが羽化。オスとメスが揃ったので交尾を期待しました。そしてその4日後、2匹目のメスが羽化。ネットの中は3匹になりましたが、メス



写真22 羽化が近付くと翅の色が透けて見えてくる



写真23 蛹の下の部分に亀裂が入った



写真24 頭の部分は出てきたが動かなくなりました



写真25 羽化に失敗することは自然界でもよくあること



写真26 オオムラサキは一か所に何個も固めて産みます



写真27 翅がほとんどなくなっても吸蜜して生き続けたメス

の大きな羽ばたきにオスが逃げてしまって、交尾する様子はありません。

私が学校へ行っている間の時間は母が代わりにオオムラサキの様子を見てくれているのですが、今年羽化した4匹はみんな午前9時頃羽化したそうです。ですから、私は羽化の様子を1度も見られませんでした。最後に残ったさなぎの表面が白っぽくなり翅の色が透けて見えてきたのが休日だったので、期待が広がりました。6月28日、さなぎが付いている枝を切り取って、部屋に持ち込んで観察を続けました。だいたい数分でさなぎから抜け出し翅を広げってしまうので目が離せません。

すると10時5分頃、突然さなぎの下の部分の表面から亀裂が入り、しばらくすると頭の部分が出てきました。でもその後はなかなか抜け出る様子もなく、20分以上経過しました(写真22, 23, 24)。今まで他の蝶を何度も観察しましたが、こんなに時間がかかるのはおかしいと思いました。そして30分経って、ついに動かなくなりました。仕方なく、ピンセットを使ってさなぎを破いてみると、翅がさなぎに癒着し体もベトベトです(写真25)。でも生きてはいたので飼育ケースに入れる

表1 オオムラサキ飼育4年間のまとめ

飼育期間	越冬幼虫の数	羽化成虫の数	幼虫飼育時の失敗点	成虫飼育時の失敗点
2006年 (2005年冬～)	2	0	エノキの切り枝がしおれる	
2007年 (2006年冬～)	3	2	飼育ネット内にアリの侵入	ネコに喰われた
2008年 (2007年冬～)	3	0	越冬中にカビ発生 自らの糸にからむ	
2009年 (2008年冬～)	6	4	飼育ネット内にアリ またはクモが侵入	飼育ネットが狭く 十分に羽ばたけな かった 産卵したが交尾し ていなかった

と、翅が縮れて伸びず、体のバランスも悪いのですぐにひっくり返ってしまいました。結局次の日見ると死んでいました。オスでした。

7月3日、ネットの中のエノキの葉に卵を見つけました(写真26)。あちこちに何個も固めて産み付けられています。感動です!「孵化したら・・・オオムラサキをたくさん殖やして故郷の里山に帰してあげよう!」夢は膨らみました。その後、オスは羽化後17日目に・・・1匹目のメスは羽化後20日目に死んでしまいましたが、2匹目のメスは翅がほとんどなくなるほどボロボロになっても、毎日蜜を吸って30日間生きました。最後は枝に止まる力もなくなりすぐに落ちるので、蜜とともに飼育ケースの中に入れていました(写真27)。

おわりに

オオムラサキは環境汚染に弱いと聞きました。私の住む町は国道43号線に近く、空気も汚れています。そしてベランダは日差しも強く、夏はかなり温度も上がり、決してオオムラサキにとって暮らしやすい場所ではないので、観察していても申し訳ない気持ちでいっぱいになります。

そこで朝夕はネットとその周りに霧状に水を撒いたり、すだれで日よけをするなどの工夫もしました。春になればエノキも芽吹き新たに枝を伸ばすので、周りを覆うネットも、より大きく作り直さなければならないでしょう。

この年は6匹の越冬幼虫から4匹の成虫が羽化し、産卵もしました(表1)。結局卵は無精卵で孵化することはありませんでしたが、オオムラサキ繁殖への道が一步開けたような気がします。自然での個体数も減り、必ず毎年越冬幼虫を見つけられるとは限りませんが、今後も飼育観察を続けていきたいです。